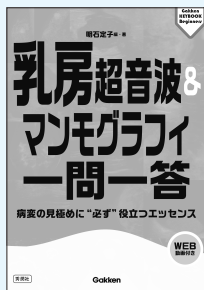


乳房超音波&マンモグラフィ 一問一答

病変の見極めに“必ず”役立つエッセンス

編集：明石定子（東京女子医科大学乳腺外科）



発行：Gakken

2024年9月刊行

A5判・204ページ

定価：6,600円（10%税込）

旧知の放射線科医に久しぶりに会った際、「マンモグラムって、どうしてあんなにわかりにくいんだ？」といわれました。彼は核医学を専門としているので、「核医学だってかなりなもんだよな」とも思いましたが、ふと考えると、乳腺の画像診断は、他の部位とはかなり異なる特徴があることを再認識させられました。デジタル化が進んだとはいえ、マンモグラムは基本的にはバリエーション豊富な軟部組織の単純写真であり、超音波画像も背景によって見え方が大きく変わります。また、異常所見があれば非常に精緻な読影が求められ、使う用語も決められており、カテゴリ判定も求められるといった、難しい要素が多々あります。

このような背景から、乳腺の画像診断は、初学者にとってとっつきにくく、難しすぎると感じられ、敬遠される恐れがあります。また、画像診断を専門とする医師の間でも“難しい”“慎重に取り組むべき”とされ、専門家に任せるべきだと思われがちです。しかし、実際には専門家だけでなく、一般の医師がかかわらなければならない場面も少なくありません。

本書は、若手医師、これから乳腺診療を始める医師・超音波検査士・診療放射線技師を主たる対象と

して書かれた、様々な臨床場面を想定した入門書です。しかし、乳腺以外を専門とする医師にもお勧めできる内容になっています。乳腺の解剖と画像の対比から始まり、臨床上よく遭遇する画像の説明が丁寧に書かれています。

特に初学者にお勧めしたいところは、前半の基本的内容です。ここには、装置の特徴、検査の流れ、スキンのコツ、さらに動画を含めた画像所見までわかりやすく説明されています。初学者には、是非この基本的内容にまず目を通してほしいと思います。基礎をしっかり身につけることで、後半の鑑別診断の理解が深まり、実際の臨床症例への対応力も向上し、次のステップへのスムーズな移行が期待できるでしょう。

また、本書では、日本の乳腺診療の第一線で活躍されている専門家が共同著者として名を連ねており、どの章にも深い洞察に裏打ちされた解説がなされているので、乳腺診療に携わる医師たちにとっても、より理解を深めることができる内容になっていると思います。

乳腺の画像、特にマンモグラフィは紙に印刷すると、モニタで見るよりもコントラストが低く、病変がわかりにくい画像になってしまうという難点があります。また、超音波画像は静止画で見るよりも動画でみた方が圧倒的に理解が深まります。本書に掲載された画像の一部はWEBでみることもでき、その欠点を補う形となっています。すべての画像がWEBで閲覧できるわけではなく、マンモグラフィの解像度は必ずしも高くないという点を差し引いても、本書の内容を最大限に活かすための努力は十分に評価できます。

日々の忙しい診療の合間を縫って、このような素晴らしい入門書をご執筆された明石定子先生をはじめとする専門家の皆様に、感謝の意を表したいと思います。

シカゴ大学医学部 放射線科
阿部裕之